

夏、盆休みを利用して福島裏磐梯へ行った。東京外環道を川口で東北自動車道へ乗り換えて北上する。出発した時にはまだ真っ暗だった空が徐々に明けてくる。

東北行きは二つあった。

一つは、途中、安達太良山と阿武隈川を見ることが。《樹下の二人》のなかで、高村光太郎が「あれが阿多羅山／あの光るのが阿武隈川／ここはあなたの生まれたふるさと」と書いた山と川だ。その山と川を、光太郎の妻、智恵子が「本当の空」と呼んだ空を見てみたかった。光太郎は「智恵子は遠くを見ながら言ふ。阿多羅山の山の上に／毎日出てゐる青い空が／智恵子の本当の空だといふ。あどけない空の話



やまもと たろう
山本 太郎

夏の終わりに

である」と書いた。あどけないがそんな青い空を見てみようと思

った。
もう一つの目的は、その近くで

キャンプし星を見ることがだった。

郡山で東北自動車道と分かれ磐越自動車道へ入るあたりで、かすかに安達太良山が見えた。車を止め、空を仰いでみた。切っても切れない空が見えた。そこは、1年半ほど前、新潟から磐越経由で東北へ入ったときに通った場所だった。その時の東北は、まだ春も遠く、雪でも降りそうな曇った空に青い空を見ることができなかった。

無い」と言った。いま東京にも青い空は広がる。だけど、満天の星を見ることはできない。

第一の目的は果たしたが、第二の目的は果たせなかった。その夜、突如天気が崩れ、雨が降った。テントで沈没し、雨の音だけを聴いた。それはそれでよかった。翌日は再び快晴の空が広がった。裏から見た磐梯山は山体崩壊の跡を残した荒々しい姿を見せた。左手には安達太良山も見えた。爽やかな風が吹いた。いわし雲が広がっていた。

盆が終わると、夏もそろそろ終わりを迎える。永遠に続くかと思うほど長い夏休みがあった少年時代からそうだった。

(長崎大学熱帯医学研究所教授)